

I. 実施概要

(ア)調査の目的

本調査は、内部質保証ならびに自己点検・評価の一環として、神戸女子短期大学（以下、本学とする）の現状・特徴を把握し、マーケティングやエンrollment・マネジメントに活用することを目的とする。

(イ)調査対象

2020年10月1日現在、本学全学科（総合生活・食物栄養・幼児教育）に在籍する全学生499を対象とした。

1年次生 240名

2年次生 259名

(ウ)調査方法

一般財団法人 短期大学基準協会が実施している『短期大学生調査(Tandaiseichosa)』を用いた。本学においては、平成29年度から継続して同調査を行っている。

方式：マークシート式

時期：令和2年10月～11月中旬

回収率：回答者数494名/在籍者数499名 99.0%

II. 結果・考察

【結果】

- A0入試による入学者割合(49%)増加傾向（昨年度本学(43%)、今年度全国(34%)）
- 入学動機は昨年度とほぼ同様の傾向
 - 重視している項目（重視した+やや重視した）
 - ① 自分の興味があることや専門分野の内容が学べる(94%)
 - ② 就職するのに必要な資格が取れる(82%)
 - ③ キャンパスの雰囲気によさそうだった・オープンキャンパスでの印象(75%)
 - あまり重視していない項目（重視した+やや重視した）
 - ① 奨学金や学費免除などの経済的サポートがもらえる(40%)
 - ② 4年制大学に編入することができる(39%)
 - ③ 専門学校に行きたくなかった(35%)
- 授業内容の傾向

全国平均に比べて「パソコンなど情報機器を使う」、「定期的な小テスト」の項目が高く、例年に比べてオンライン授業が多かったため、全体的な数字が伸びたと考えられる。その一方で、「文献や資料を集める」、「図書館を利用する」、「授業をつまらなく感じた」等の項目が低い結果となった。
- 学習時間：全国平均と比して、授業に関する勉強に費やす時間は多いが、授業に関係ない学習に

費やす時間は少ない傾向

- 教員と関わる機会：全国平均と比して、進路相談は多いが、学習や研究に関して関わる機会が少ない傾向
- 活動や体験：今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止による緊急事態宣言の発出等もあり、今年度は全体的に活動割合が低くなっている。特に地域貢献・ボランティア活動への参加度は17%と昨年度（39%）に比べて22%も減少した。この傾向は全国平均でも同じ傾向が見られる。
- 施設・サービス：全国平均と比して、全項目において同等以上の満足度
- 教育：全国平均と比して、授業に関する満足度は高いが、サークルや部活に関する満足度が低い
- 能力や知識：概ね向上・増加したと実感しているが、リーダーシップや外国語を使う力、データなどの理解力、読解力、プレゼンテーション能力に関しては過半数が向上していないと感じている
- 意識や関心：計画性・スケジュール管理、キャリア意識、自己理解などは向上しているが、地域や社会貢献への意識、選挙への関心は変化していないと感じている
- 進路希望：総合生活学科は「ビジネス・経営系」「アパレル・ファッション系」「美容系」「旅行・ホテル・ブライダル系」「建築・インテリア系」「医療・看護系」など多岐にわたり、食物栄養学科は「食・栄養系」（70%）、幼児教育学科は「保育・こども系」（90%）と各学科の特徴が表れている
- 総合評価：充実度（72%）、他の学生（70%）・教員（65%）・事務職員（54%）との関係、キャンパスの居心地（61%）、まなび（学習）（73%）については、総じて満足度が高い

【考察】

令和2年度の結果としては、昨年度とほぼ同等の結果となっている。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため緊急事態宣言が発出されるなどして、前期についてはほぼオンライン授業のみであったことは、本調査に少なからず影響を与えたと考えられるが、ボランティア活動や学校行事等の課外活動の数字は下がったが、授業内容等についてはほぼ例年どおりであった。この点は本学の教職員がオンライン授業やオンラインでの学生サポートにおいても質の低下がなかったことを示す内容となっているのではないかと窺える。